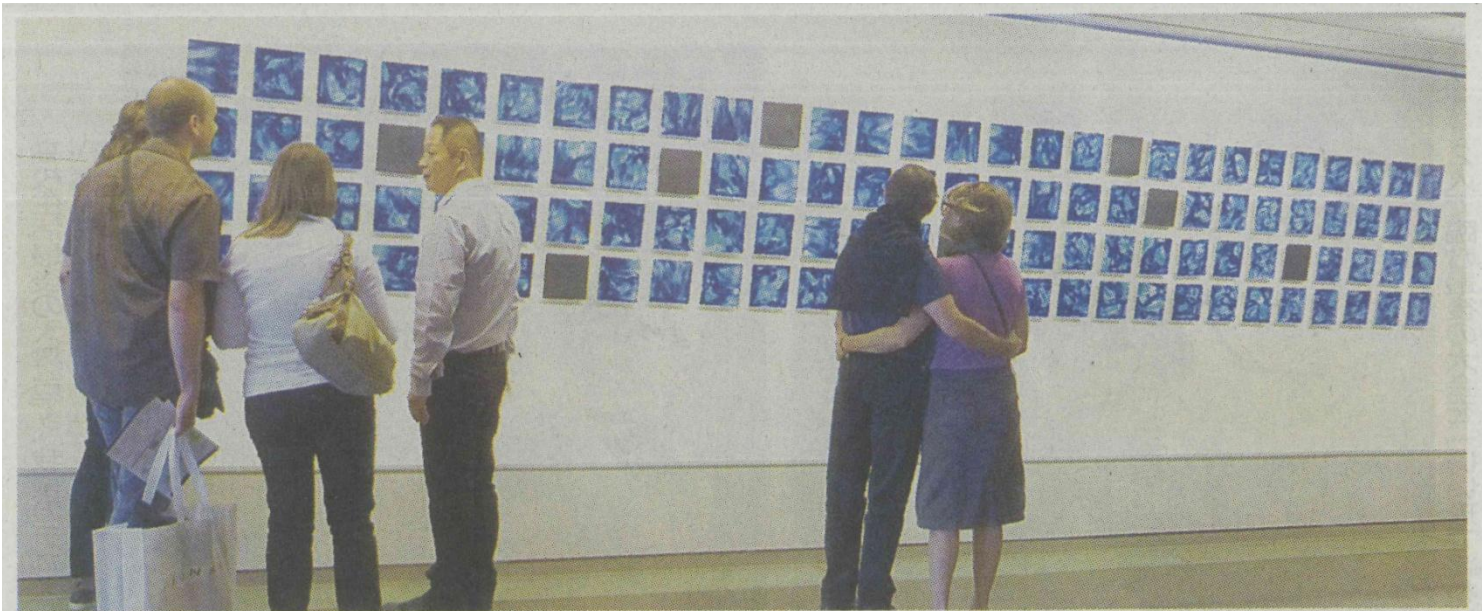


# 八重山毎日新聞

THE YAEYAMA MAINICHI SHIMBUN

10月10日 金曜日  
2014年(平成26年)

発行所  
株式会社 八重山毎日新聞  
〒907-0004 沖縄県石垣市宇登野城614



## パリで石垣焼をPR

### 石垣焼窯元の金子晴彦さん

石垣焼窯元「石垣市名蔵」の金子晴彦当主(53)は9月2日から13日にパリ日本文化会館、同16日から30日にパリのギャラリー「プレオウシス」で個展を開き、石垣焼をPRした。

石垣焼は、油滴天目の器に鈇石と透明のガラスを融合し、沖縄の海の色を発色させた陶器で、鮮やかなブルーが特徴。

これまでパリで開かれるインテリアの国際見本市「メゾン・エ・オブジエ」に2010

パリ日本文化会館の展覧会で、大作「ハッピー・ブルーウォール」を来場者に紹介する金子晴彦当主(左から3人目)は9月6日(金子当主提供)

年から3年連続で出展したほか、12年11月にルーブル美術館内の国際文化遺産展覧会、13

年9月にパリのグラン・パレ展示会場で開かれた第1回レベラシオン(世に知らす)アート・クラフト展覧会などに参加。

アート・クラフト展覧会では世界の300人に選ばれ、日本から唯一の参加で脚光を浴び、今回の展示会が実現した。

今回は112個の陶板で構成する大作「ハッピーブルーウォール」など約30点を紹介。来場者から「水が滴る音が聞こえる」「エネルギーの移動を水のように感じる」など感想が寄せられたという。

金子当主は「ロシアやニューヨークからも美術関係者が来て見てくれた。アーティストとして良いスタートとなった」と振り返り、「自分の焼き物を求めている人がたくさんいる。沖縄の海の美しさを表現し続け、その良さをPRしていきたい」と抱負を語った。

今回の展示会は、パリの日本文化会館で開催され、約300人が来場し、金子当主は「パリで石垣焼をPRできてとてもうれしい」と話した。